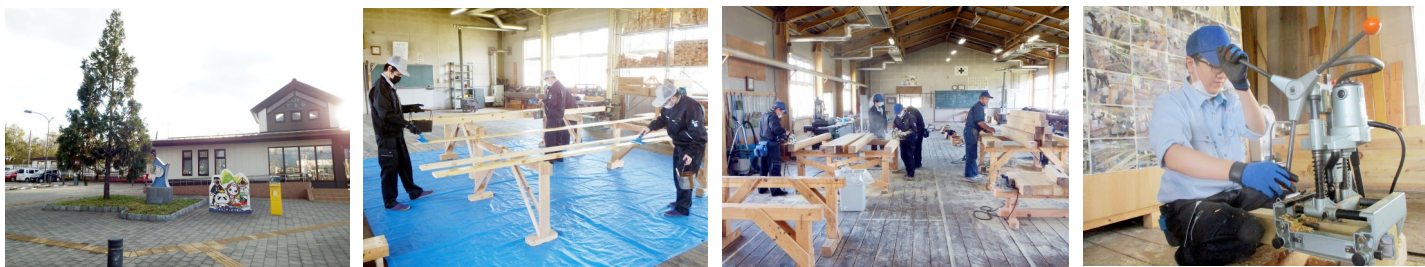


JR下北駅前広場賑わい創出プロジェクトでサークルベンチを製作しました

青森県立むつ高等技術専門校では、木造建築科で学ぶ知識・技能を活かし、地域の問題解決に協力する職業訓練に取り組んでおり、地域の方から木造建築物の現場製作及び補修工事の依頼があった場合、応用実習の一環として校内では体験できない木造建築物の現場製作及び補修工事を受託事業として実施しています。



今回の依頼は、むつ市(都市整備部都市計画課)から下北半島の鉄道の玄関口である下北駅前広場に、ひばの木を囲む『下北半島をかたどったサークルベンチ』を建設し、下北半島を訪れる観光客や市民が集う地域の憩いの場として整備して欲しい旨の依頼がありました。5月31日(月)から1年生と2年生が協力しながら、部材の塗装や加工作業についてそれぞれ役割を決めて作業に取り組んでおり、6月7日(月)から木造建築科の2年生がメインとなって現地でサークルベンチの製作に取り組みました。



2年生にとっては今年度初めての現場実習です。緊張や不安がある中での現場実習となっていますが、講師の先生から作業指示を聞きながら、大工道具や電動工具を使ってベンチの土台を据え付けるなど部材加工にチャレンジしました。駅前広場のシンボルである「ひばの木」を囲む縁石の部分は、下北半島のカタチをしたものとなっており、訓練生のみなさんも土台の据え付けと部材の納め方について試行錯誤しながら作業を進めていました。



下北駅前広場のサークルベンチ設置作業は6月15日(火)で完了し、無事、引き渡しをすることができました。下北半島のカタチをした縁石の上部には、地元産のひば材を使ったベンチができ上り、むつ市の玄関口として多くの市民の方や下北半島を訪れる観光客の憩いの場が誕生しました。特に今回の現場では、現場合わせで部材を加工する作業となったので、訓練生にとって現場に合わせでものをつくることの難しさを実感することができたと思います。製作に携わった訓練生は、「ものづくりを通して地域に貢献することは、むつ技専でしかできないことなので貴重な経験になりました」「電動工具の使い方が勉強になりました。このような現場での貴重な体験を就職後に役立てていきたいです」等の感想がありました。



今回このような貴重な現場実習の場を提供していただいたむつ市都市整備部都市計画課様にはたいへん感謝しております。ありがとうございました。また、これからの観光シーズンやJR大湊線開業100周年を迎えるにあたり、下北半島を訪れる多くの方が下北駅を利用することになると思いますので、下北駅をご利用の際は、駅前広場のサークルベンチに座り、ひばの木の下で一息ついてみませんか。※掲載写真は、撮影時のみマスクを外して撮影を実施しています。